



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/26 (月)	▲ 2,100	▲ 1,200	▲ 3,300	国庫短期証券発行・償還(3M・6M)	CP等買入 ▲ 600 国債補完供給 + 400	社債等買入 + 800	日: MPM(1日目)
4/27 (火)	▲ 1,000	+ 4,000	+ 3,000				日: MPM(2日目)、展望レポート 米: FOMC(1日目)
4/28 (水)	▲ 2,000	+ 5,000	+ 3,000				米: FOMC(2日目) 大統領上下両院合同会議で演説
4/29 (木)				祝日 (昭和の日)			米: 新規失業保険申請件数(24日終了週) GDP(1Q)
4/30 (金)	▲ 2,900	+ 4,000	+ 1,100				日: 有効求人倍率(3月)、完全失業率(3月) 東京CPI(4月)、鉱工業生産(3月) 米: ミシガン大学消費者マインド指数(4月) 欧: GDP(1Q)、CPI(4月)、失業率(3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初527兆3,000億円から始まった。20日の国庫短期証券発行、21日の国債発行などと前半は減少要因が多かったが、その後は22日の国庫短期証券買入オペ・国債買入オペ、23日の新型コロナ対応金融支援特別オペと増加要因が多く、週末は530兆8,500億円と週初対比3兆5,500億円増加した。

無担保コールON物加重平均金利は、積み期の前半であるものの業態を問わず調達ニーズが強く高止まり傾向となり、19日から22日まで△0.013%が続いた。週末19日は3日積みであることから地銀業態を中心に調達ニーズがやや強まり、同金利は△0.012%となった。

総務省が23日に公表した2020年度の消費者物価指数(CPI、2015年=100)によると、生鮮食品を除く総合指数が101.4と前年比0.4%低下し、4年ぶりの下落となった。

来週の主な予定は、国内では日銀金融政策決定会合(26日・27日)及び「経済・物価情勢の展望」の公表(27日)などがあり、海外では米連邦公開市場委員会(27日・28日)米国GDP(1Q)の公表(29日)などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.030
2M	△0.010 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.00
CP 3M	△0.070 ~ 0.00

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.100%近辺の出合いから始まり、短国買入オペの実行日となる22日受渡しでは、一時△0.110%台まで低下する場面も見られた。その後、短国3M・6Mの発行日である26日受渡しでは、△0.090%近辺が出合いの中心となって越週した。SC取引は2年409~423回債、5年136~147回債、10年331~362回債、20年164~176回債、30年59~70回債、40年9~13回債などに引合いが多く見られた。

<TDB>

4月22日の6M997回債(10月25日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1082%(前回債△0.0962%)、平均落札利回り△0.1102%(同△0.0962%)となり、4月23日入札の3M998回債(8月2日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1023%(前回債△0.0968%)、平均落札利回り△0.1035%(同△0.0990%)となった。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆500億円で、週間償還額(約2,800億円)を大幅に上回った。発行市場は、鉄道や電力などの業態で大型の発行が行われた他、大型連休前の前倒し発行も見られ、活況なマーケットとなった。発行残高は先週末の22兆4,086億円から、22日時点で22兆8,854億円に増加した。発行レートは、△0.07%台~0%近辺での出合いであった。

来週の週間償還額は、約7,000億円程度となっている。発行市場は、月末週となるものの、日数も少なく、既に前倒しで資金調達を行った企業も見られていることから、落ち着いたマーケット展開を予想する。発行レートは、今週同様幅広いレンジでの出合いが想定されるが、日銀オペ等の対象銘柄や発行頻度の少ない銘柄に対する投資家のニーズは引き続き強く、マイナス圏内での出合いを予想する。26日に、CP等買入れオペが4,000億円程度オファーされる予定。